

## はじめに

「イエス・キリストはどのような方か」について知ろうとすれば、どうすればいいでしょう。聖書に頼らざるを得ません。聖書は、イエス・キリスト以前に書かれた旧約聖書 39 巻と、以後に書かれた新約聖書 27 巻から成り立っていますが、イエス・キリストについて知ろうとすれば、新約聖書を読むとよいでしょう。新約聖書のうちのヨハネの福音書 1 章を手がかりにしてみましょう。

イエス・キリストはどのような方かを、聖書は人となられる以前、人となられた後、その後について、の 3 つの事柄を教えています。

### 1 人となられる以前。

聖書は、イエス・キリストを「人となられた方」と教えています。では、人となられる以前は、どうだったのでしょうか。

#### (1) 初めから神とともにあり、神であった (1)。

イエス・キリストは、「初めに神とともに存在し、神であられた」と書かれています。聖書で言う神とは、天地万物が存在しない前から、永遠に存在されたのです。そしてその神が天地を造られたので、万物と私たちが存在するようになりました。

そして、その神は、父なる神、子なる神、聖霊なる神として存在しておられたというのが、聖書の教えです。これを「三位一体の神」と言いますが、三位一体は、キリスト教の神の最も重要な特徴です。

**適用：**「神は人間が作ったのだ」と言う人が結構多くいます。その意見は、一部正しいのです。確かに、この世には人間が作った神がたくさんあります。でも、聖書でいう神は、人間は作れません。それでも、「人間が想像したものだ。だから神などいない」と言う人がいます。

でも、ちょっと考えてみましょう。もし、この世に人間が全くいなくなったとしましょう。それでも、太陽や月や星は存在するでしょう。地球も存在し、植物も動物もいるでしょう。では、それらはどのようにして、存在するようになったのか。自然に出来たとは、考えられません。この自然が偶然に出来た確率は、地球 35 週分の 1 と言われます。神様がお造りになったのです。

**結論：**イエス・キリストは、人となる前は、永遠に神とともに、神として存在していたと、聖書は教えています。

#### (2) すべてのものの創造者 (3)。

聖書ははっきりと、「すべてのものはこの方によって造られた」と語っています。

イエス・キリストは、万物の創造者なのです。聖書はこう語っています。「万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は御子によって造られ、御子のために造られたのです。御子は万物よりも先に存在し、万物は御子によって成り立っています」（ヨハ1:16-17）。

**適用：**以前私たちが横浜にいるとき、私たちの教会にある会社の社長さんがお出でになりました。奥さんが教会に来始めたので、車で送って来るためでした。初めは、説教が始まると寝ていました。その方は、大学で科学を勉強された方で、「神など信じられるか」という態度が見え見えでした。「キリストが病人を直したと、復活したとか、科学を勉強した者には、馬鹿らしくてとても信じられない」とあっていたようです。その人が、ある日の集会で、このヨハネの1章を読んで、「イエス・キリストが神であるなら、人を直すのも、復活するのも不思議ではない。人間だと思うから、信じられないのだ」と、開眼し、クリスチャンになりました。

**結論：**イエス・キリストは、この世界をお造りになった方と、聖書は教えています。

## 2. 人となられた (4-18)。

神であられた方が、人となられたのです。それはなぜでしょう。二つの理由があります。一つは、神を人々に示すため。もう一つは、人々を救うためです。

### (1) 神を示すため。

神の御子は、人々に神をはっきりと示すために、人となられました。それ以前は、イエス・キリストという名は在りません。人となって初めて、イエスという名をお持ちになったのです。ちなみに、キリストとは、名前ではなく、尊称です。釈迦を仏陀というのと同じです。

イエス様は、「わたしを見た者は、父（神）を見たのだ」と言われました。また、「わたしは、自分から話すのではなく、父（神）から聞いて、神のことは話すのだ」とも言われました（ヨハ14:9-11）。

さらに、イエス様の行いは、神はどのような方かを示していました。病人を直し、貧しい者を助けたのは、神がどのような方かをはっきり示していました。

**適用：**神を見た人はいません。しかし、旧約聖書には、神がこの世をお造りになったこと、神と人との関わりについて、イエス様がお出でになるまでのことが書かれています。そして、イエス様がお出でになり、神のこともっとはっきりとお示しになったのです。

## (2) 人を救うため (I ㇰ ㇰ 2:24-25)

御子が人となられたのは、神を示すと同時に、さらに大きなことをするためでした。それは、人を救うことです。病人を直し、貧しい人を助けることも人を救うことです。イエス様は、病気や貧しさや、人間の悩みの原因から、人を救おうとされたのです。

人間の苦しみや悩みの原因は、何でしょう。それは、人間の持つ罪であると、聖書は教えています。

**適用：**たとえば、夫婦喧嘩は、まことに些細なことから起こります。先日も、私たちが喧嘩になりそうになりました。横浜に居たときの菊名西教会は、この数年長老が選ばれませんでした。選挙のやり方が悪い、そうではない、と言い争いになり、あげくの果ては、「あなたが長老を育ててこなかったからよ」と言われました。私は、煮えくり返るような気持ちをぐっところえました。

罪とは、何でしょう。それは神に背くことです。神を信じないで、神に背くことが罪であり、そこからあらゆる罪が生じ、人間を不幸にしているのです。

では、イエス様は、人を罪から救うために何をしてくださったのでしょうか。それは、人の罪を負って十字架につけられ、死んでくださったのです。

**適用：**身代わりの死については、三浦綾子さんの小説「塩狩峠」に出てくる永野信夫がいます。これは、実話をもとにしたもので、1909年(明治42年)2月28日、北海道にある塩狩峠で事件は起きました。この区間に差し掛かった旅客列車の客車最後部の連結器がはずれて客車が暴走しかけたところ、当時鉄道院(JRの前身)職員でありキリスト教徒であった長野政雄という人が列車に身を投げ、客車の下敷きになり、列車を止め、乗客の命が救われた。現在、この塩狩峠の頂上付近にある塩狩峠駅近くには、この事件の顕彰碑が立てられています。

イエス様は、十字架に死にましたが、三日目に死から復活し、40日この世におられて後、天にお帰りになったと聖書は、伝えています。イエス様が復活したということ、これまた「そんな馬鹿な」という人は多いのですが、実はこのイエス様の復活は、聖書の中心的な教えであり、これがなければ、キリスト教は成り立ちません。

人が信じられないような教えなら、強調しないほうがよさそうですが、聖書はそれを中心に据えます。そして、イエス様が生きていることは500人以上の人々が見たとされています。そして、そのことの証人として、多くの人々が自分のいのちさえも惜しまなかったのです。

## 3 その後のイエス様。

イエス様は復活し、天にお帰りになり、今は生ける救い主となっております。

**(1) 永遠に存在される救い主（ハブル7:24-25）。**

イエス様は、永遠に生きておいでになります。生きておいでになるから、私たちを救うことがお出来になるのです。死んだ者は、私たちを救うことができません。死んでも、その教えが残っていれば、その教えが私たちを助けるというかもしれません。そういうこともあるでしょう。しかし、イエス様は、生きておいでになるので、私たちの悩みや苦しみを知っておられ、私たちを救ってくださるのです。

**(2) 再びおいでになる（使徒 17:30）。**

聖書は、「イエス様は再びおいでになる」と教えています。いつなのか、それはだれも分かりません。何のためにお出でになるのでしょうか。聖書によれば、それは「最後の審判」を行うためです。

**適用：**「最後の審判」といえば、ルネッサンスの画家ミケランジェロがローマのバチカンのシスティーナ礼拝堂に描いた絵が有名です。これは、イエス様が再びお出でになって、生きている人、死んだ人すべてに裁きを行われる「最後の審判」を描いたものです。

人間が生きている間に、正しい裁きが行われるとは限りません。正しい人が報われず、悪者が栄えることもあります。それでは、不公平ではありませんか。正しい裁きはないのでしょうか。あるのです。それがイエス・キリストによる「最後の審判」です。その時、悪者は永遠の滅びに、正しい者は、永遠の神の国を継ぐのです。

**結論**

以上「イエス・キリストはどのような方か」を見て来ました。イエス様は、子である神として永遠に存在しておられました。そして、人に神を示し、人を救うために、人間となってこの世にお生まれになりました。そして、人間の罪をご自分の身に負い、人間の身代わりとなって死んでくださいました。父である神様は、死んだイエス様を死からよみがえらせ、天の神様の右の座に着かせてくださいました。今、イエス様は生きていて、ご自分のもとに来る者をすべて救ってくださいます。

聖書は、イエス・キリストこそ、真の神であり、あなたを救ってくださる方であると教えています。素直にイエス様を信じ、受け入れましょう。